養殖用稚魚（魚の赤ちゃん）について

魚の子供がどのようにやってくるかご存知ですか？養殖魚の子供には、卵からふ化させる『人工稚魚』と、海で稚魚を捕獲してくる『天然稚魚』の２つがあります。

種　類	人工稚魚	天然稚魚	
		国内稚魚	外国稚魚
	卵から人工的に育てた稚魚	自然の海で生まれた稚魚	
導入理由	・稚魚が計画的に確保できる ・天然稚魚に比べ成長などが良い	・天然稚魚を獲る技術があり確保しやすい ・人工稚魚生産技術が確立されていない	
主に利用されている魚	マダイ、ヒラメ、トラフグ、シマアジ、クルマエビなど。	ブリ（ハマチ）、マグロ、イシダイ、カワハギなど。	カンパチ、スズキ、イサキなど。 〔輸入相手先国〕中国など。

人工稚魚―ヒラメの稚魚生産過程／トラフグの稚魚生産現場

卵から人工的に育てた幼魚を利用する人工稚魚。その中のヒラメとトラフグをご紹介します。

ヒラメの稚魚生産の過程

①受精卵
（0日目）

②ふ化仔魚
（4日目）

③変態前期
（15日目）

このころから
目が左側に
移動し始めます

④変態中期
（20日目）

⑤変態後期
（30日目）

⑥稚魚
（50日目）

ようやく大人と
同じ形になりま
した！

このように人工孵化（ふか）によって生まれた稚魚は、一定期間、陸上の生産施設で育てられ、ある程度の大きさになれば、養殖場に移されます！！

トラフグの稚魚生産現場

稚魚を育てる為の
水槽がたくさん
ならんでいます。

かわいい
トラフグの稚魚。

快適な環境で稚魚が
育つ為に水温などが
徹底的に管理されています。

白黒の線の上を掃
除機が通り、常に
水槽内をきれいに
保ちます。